

Ⅱ 第一次選抜学力検査について

1 教科別の成績と考察

(1) 国語

ア 正答率表

大 問	㊦									
小 問	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
正 答 例	けいしょう	みが	いらい	ねば	せいとん	判断	敬	資源	省	地域
配 点	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
小問別正答率 (%)	91	98	97	97	97	89	64	88	63	89

㊧						
問 一	問 二	問 三		問 四	問 五	問 六
		A	B			
ウ	手に入らないくらい、何でもできて、何でも持っている(25字)	友達でいてくれる	友達に相応しい男	エ	どこに行っても何になってもいい	イ
3	6	3	3	3	4	3
93	33	85	84	78	70	92

㊨								
問 一	問 二	問 三	問 四		問 五			問 六
			動詞	活用形	A	B	C	
C	小回りがきかないという欠点のために、障害物の多いところでは立ち往生してしまう(38字)	イ	歩け	連用(形)	作動する原理	操作がむずかしい	使い手の住む環境	ア
3	6	3	2	2	2	2	2	3
70	71	82	44	38	72	63	77	78

㊩				㊪		㊫	
問 一	問 二			問 三	問 一	問 二	(略)
	I	II	III				
ほしいま まに	災難にあう (5字)	財宝を守る用心 (7字)	苦しみ悩ませる (7字)	つねに足る事 を知るべし	体操服 (3字)	エ	
2	3	3	3	4	3	2	10
87	77	85	62	87	94	84	71

イ 全般について

中学校における国語の学習を通して身に付けた基礎的・基本的な学力、特に自分の言葉で表現する力を中心として、総合的に評価できるよう出題した。また、出題に当たっては次の点に注意した。

- ① 文学的な作品を取り上げ、文章の展開や表現に即して具体的な場面や人物の心情を理解し、表現する力をみる。また、説明的な作品を取り上げ、文章の論理的な展開に注意して、筆者のものの見方や考え方を的確に捉えることのできる、幅広い国語の力を多方面からみる。文章の内容を整理し、まとめながら目的に応じた表現ができる力をみる。作文問題では、二つの意見のうち、その意見を選んだ理由について、具体例や自らの体験を根拠として、自分の考えを的確に表現する力をみる。
- ② 中学校学習指導要領「国語」に基づき、各領域と言語事項を踏まえ、幅広くバランスのとれた出題をするとともに、生徒の学習到達度を適切に評価できるよう工夫する。

問題については、今年度は、漢字についての問題、文学的文章、説明的文章、古典の文章、要点を聞き取りメモにまとめる問題、作文の全6題を出題した。古典は「浮世物語」から出題し、作文は中学校の中庭のごみ箱設置に関する二つの意見のうち、自分がその意見を選んだ理由について、具体例や自らの体験を根拠として、自分の考えを的確に表現する問題を出題した。平均点は77点であった。

大問別に成績及び解答の内容を概括すると、**一**では、漢字の読みを答える問題については、全体的に正答率が高く、平均正答率が9割を上回った。漢字を書く問題では、平均正答率が6割程度のものが2問あった。**二**では、空欄に入る適切な言葉の組合せを答える問題や本文の内容に関わる選択問題は正答率が高かったが、複数箇所から抜き出した内容を指定条件に合わせてまとめて記述する問題の正答率が低かった。**三**では、動詞をそのまま抜き出し、その活用形を答える問題の正答率が低かった。**四**では、本文における作者の考えをまとめた文章の空欄に、字数指定した適語を現代語で書き入れる問題の正答率が低かった。**五**は、全体的に正答率は高かった。**六**は、「中学校の中庭のごみ箱設置」に関する二つの意見のうち、自分がその意見を選んだ理由について、具体例や自らの体験を根拠として、自分の考えを的確に表現する問題であり、正答率は7割を上回った。

ウ 問題別の考察

一

平成22年度から漢字の問題を独立させて出題している。読みを答える問題を5問、漢字を書く問題を5問、各2点の配点で出題した。読みを答える問題については全体的に正答率が高かった。漢字を書く問題は、「敬(う)」の正答率が64%、「省(く)」の正答率が63%であり共に低かった。「敬(う)」の誤答としては「尊(う)」、「省(く)」の誤答としては「除(く)」とするものが多くみられた。

二

辻村深月による「ロードムービー」から採った。小学校五年生のワタルが、児童会選挙で児童会長に立候補したトシの応援演説をする場面である。何でもできて何でも持っているトシが羨ましくて、みんなトシと友達になろうとするが、中には友達をやめていく人もいるとワタルは言う。しかし自分はトシと友達でいることに決め、トシに相応しい男になろうと決めたと宣言するワタルは、トシにどこに行っても何になってもいいと呼び掛ける。そんなワタルの演説を聞いて、応援演説の内容ではないと思ながらも、トシは、もうこれ以上は何もいらぬ、ワタルと友達になれて本当に良かったと思う。互いの存在を認め合いながら成長していく少年たちの姿を描いたものである。主人公の心情の変化や気付きは受験生が追体験できるものであり、共感できる作品である。

問一 副詞について、空欄に入る適切な言葉の組合せを選択肢から選んで答える問題である。正答率は 93 %であった。

問二 みんながトシのことを眩しい光だと感じるのはなぜだとワタルは考えているかについて、本文中の表現からまとめる問題である。指示内容を正しく捉え、適切にまとめる力をみようとした。正答率は 33 %であった。「手」という指定語が適切に使われていないものが多かった。

問三 「俺の問題です」と言うときのワタルの気持ちについて、本文を踏まえてまとめた文の二カ所の空欄に字数指定した適語を本文中から抜き出して補充する問題である。

A 「友達でいてくれる」の正答率は 85 %であった。

B 「友達に相応しい男」の正答率は 84 %であった。

問四 「負けない」の「ない」と同じ品詞を含むものを選択肢から選んで答える問題である。正答率は 78 %であった。誤答としては**ア**や**イ**が多かった。

問五 トシの将来に対するワタルの思いが述べられている部分を本文中から抜き出す問題である。正答率は 70 %であった。「まずは児童会長になってください」という離れた二カ所の部分を合成した誤答がいくつかあった。

問六 「もうこれ以上は何もいらいなく思った」ときのトシの気持ちについてふさわしいものを選択肢から選んで答える問題である。正答率は 92 %であった。

三

本川達雄による「ゾウの時間 ネズミの時間」から採った。車輪はヒトのような大きな生き物が、かたい平坦でまっすぐな幅広の舗装道路を造ってはじめて使い物になるという事実から、技術というものは三つの点で評価されねばならないと筆者は述べる。(1) 使い手の生活を豊かにすること、(2) 使い手と相性がいいこと、(3) 使い手の住んでいる環境と相性がいいこと。技術がわれわれの生活を豊かにしてきたのは間違いのない事実である。しかし、使い手を豊かにするという観点ばかりに重きを置いて技術を評価する従来のやり方を、考え直すべきところにきているのもまた事実であるという論旨である。平易な語句を用いて、技術と環境との関係に触れながら論が展開されており、受検生にとって理解しやすい内容である。

問一 与えられた一文を本文中の適切な箇所に入れる問題である。正答率は 70 %であった。誤答としては**A**が多かった。

問二 「車輪の大きな欠点」の具体的な内容と、そこから起こる問題を指定語を用いてまとめる問題である。正答率は 71 %であった。欠点と問題点を適切につなげることができずに減点される誤答が多かった。

問三 「ただ広だけのコンクリート道路」を離島に造ることについての筆者の考えについてふさわしいものを選択肢から選んで答える問題である。正答率は 82 %であった。誤答としては**エ**が多かった。

問四 「とても歩けたものではない」の中から、動詞をそのまま抜き出し、活用形を答える問題である。動詞をそのまま抜き出す問題の正答率は 44 %、活用形を答える問題の正答率は 38 %であった。動詞を抜き出す問題の誤答としては「歩けた」、活用形を答える問題の誤答としては「未然形」が多かった。

問五 自動車は「未熟な技術」だと筆者が考えている理由について、本文を踏まえてまとめた文の三カ所の空欄に字数指定した適語を本文中から抜き出して補充する問題である。

- A 「作動する原理」の正答率は72%であった。
- B 「操作がむずかしい」の正答率は63%であった。
- C 「使い手の住む環境」の正答率は77%であった。

問六 筆者の意見としてふさわしいものを選択肢から選んで答える問題である。正答率は78%であった。

四

「浮世物語」から採った。欲が深いと十分に満足することを知らず、災難にあう原因となり、財宝が多いとそれを守る用心のために余裕がなくなり、自身を苦しめ悩ませることになるので、常に満足するという事を知るべきであるという内容である。平易な表現で書かれており、受検生にとって理解しやすい内容であったと考えられる。

問一 「ほしめままに」を現代仮名遣いに改める問題である。正答率は87%であった。誤答としては、「ほしぬままに」が多かった。

問二 「欲多ければ身をそこなひ、財多ければ身をわづらはす」についての作者の考えをまとめた文の三カ所の空欄に字数指定した適語を、現代語で補充する問題である。

- I 「災難にあう」の正答率は77%であった。
- II 「財宝を守る用心」の正答率は85%であった。
- III 「苦しめ悩ませる」の正答率は62%であった。誤答としては「そこなってしまう」としたものが多かった。

問三 この話から得られる教訓の内容について、作者の考えが最も端的に述べられている部分を原文中から抜き出して答える問題である。注釈に基づいて、的確に古文を読み取る力をみようとした。正答率は87%であった。

五

美化委員会での委員長の話を学級に伝えるために作成した聞き取りメモに関する問題である。

問一 聞き取りメモの空欄に入る最も適切な言葉を、委員長の話の中から抜き出す問題である。正答率は94%であった。

問二 掃除週間の活動を実施するために、委員長の話の中で不足している内容を選択肢から選んで答える問題である。正答率は84%であった。

六

「中学校の中庭のごみ箱設置」に関する二つの意見のうち、自分がその意見を選んだ理由について、具体例や自らの体験を根拠として、自分の考えを的確に表現する問題である。正答率は71%であった。

意見Aについては、「ごみを拾ってすぐ捨てることができるからよい」という解答が多く、意見Bについては、「設置することで中庭の景観が損なわれるから設置しない方がよい」という解答がみられた。

誤答としては、二段落構成になっていない解答や、一段落目に理由が述べられてしまっている解答があった。

(2) 数学

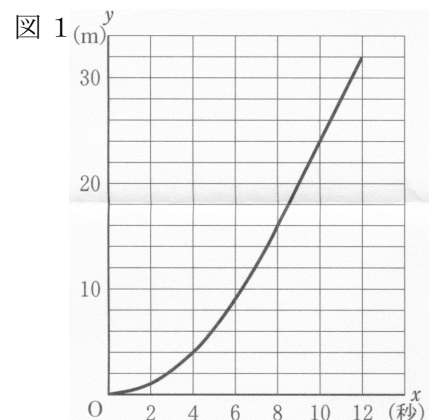
ア 正答率表

大 問	1						2		
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(1)	(2)	(3)
正答例	-22	$48b^2$	$6\sqrt{2}$	ウ, カ	エ	24π	$\frac{1}{18}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{5}{18}$
配 点	4	4	4	4	4	4	3	4	4
小問別正答率(%)	93	66	23	31	73	34	48	37	26

3			4						
(1)	(2)	(3)	(1)	(2)		(3)	(4)	(5)	
				ア	イ			(ア)	(イ)
20	4	125	$\frac{1}{4}$	4	32	$4x-16$	図 1	5	11
3	4	4	2	2	2	2	4	3	4
74	54	15	68	64	73	41	55	23	12

5			
(1)		(2)	
		(ア)	(イ)
<p>△ ABG と △ BDE で, 仮定から, $\angle AGB = \angle BED \dots \textcircled{1}$ AB // DC より, 平行線の錯角だから, $\angle ABG = \angle BDC \dots \textcircled{2}$ 線分 BD は折り目だから, $\angle BDE = \angle BDC \dots \textcircled{3}$ ②, ③から, $\angle ABG = \angle BDE \dots \textcircled{4}$ ①, ④から, 2組の角がそれぞれ等しいので, $\triangle ABG \sim \triangle BDE$</p>		$\frac{9}{5}$	$\frac{21}{20}$
10		4	5
32		29	4

6					
(1)				(2)	(3)
ア	イ	ウ	エ		
33	$5x+2y$	2	5	1(月) 14(日) 5(月) 4(日)	20
2	2	2	2	4	4
69	52	46	36	24	0



イ 全般について

出題に当たっては、次の事項に留意した。

- ① 中学校における学習の全体的・総合的な達成度をみるために、数と式、図形、関数、資料の活用における基礎的・基本的な内容をバランスよく出題すること。
- ② 身近な事象をできる限り扱い、数学的な見方や考え方を活用して課題を解決できるようにするとともに、結論に至る推論の過程を的確に表現する力を評価できること。
- ③ 表や補助図を用いて題意を正確に把握できるようにするなど、設問の形式、難易度等に配慮すること。
- ④ 基礎から発展まで段階的に設問を配置し、それに従って考えを進めやすくすること。
- ⑤ 時間内に十分解答できる質、量であること。
- ⑥ 問題を解決するために、多様な考え方が大切であることを示すこと。
- ⑦ 多様な受検生の学力を評価できるよう配慮すること。
- ⑧ 中学校の授業における学習の成果を生かせる内容とすること。

平均点は 41 点であった。受検生の学力を多面的に評価するために、基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用する力をみるよう出題している。

全体として、基本的な計算力や知識・理解をみる設問の正答率は高く、複数の数学的な見方や考え方を組み合わせて課題を解決する設問では正答率が低かった。例えば、複数の手順を用いて値を求める問題や、誕生日から数を作る手順を数量の変化として表し、他者の考えを理解し考察する問題では、正答率が低かった。

条件を的確に把握し、様々な数学的な見方や考え方を活用することにより、知識や技能を有機的に結び付けて課題を解決する力を授業の中で育成することが望まれる。

ウ 問題別の考察

1

小問 6 問の構成で、中学校 1 年から 3 年までの学習内容から、基礎的・基本的な内容についての計算力、理解力をみる問題である。(1)～(6)の平均正答率は 53 %であった。

- (1) 整数の四則演算の計算を正しい順序で行う力をみる問題で、正答率は 93 %であった。誤答には、 $(-12 + 2) \times (-5) = 50$ と計算したと考えられるものがあった。
- (2) 文字を用いた式の計算問題で、正答率は 66 %であった。誤答には、48 や $48a^2b^2$ のように分数の割り算は計算できているものの、演算を正しい順序で行うことができなかつたと考えられるものがあった。
- (3) 因数分解を利用して、式の値を計算する問題で、正答率は 23 %であった。無解答のほか、誤答には、因数分解を利用せず、式に与えられた数を直接代入し、間違えて計算したと考えられるものが多かった。
- (4) 立方体の展開図から立体の辺や面の関係を扱う問題で、正答率は 31 %であった。誤答には、向かい合った面の取扱がうまくできないまま、立方体を組み立てて考えたと思われるものが多かった。

(5) y の値が正の値をとらないことについて、関数のグラフの特徴を正しく理解しているかを問う問題で、正答率は 73 % であった。誤答には、**ア**や**イ**としたものが多かった。

(6) 角度を利用して図形の周の長さを求める問題で、正答率は 34 % であった。無解答のほか、誤答には、 $4\pi \times 4 = 16\pi$ 、 $8\pi \times 5 = 40\pi$ 、 $16\pi \times 3 = 48\pi$ としたものがみられた。

2

正方形 ABCD の頂点 D に点 P、頂点 A に点 Q があり、赤と白の 2 個のさいころを同時に 1 回投げて、さいころの出た目の数に合わせて P、Q が移動する事象を考察する問題である。(1)～(3) の平均正答率は 36 % であった。

(1) P の位置が頂点 B で、Q の位置が頂点 D になる確率を求める問題で、正答率は、48 % であった。

誤答には、 $\frac{1}{36} = \frac{1}{6} \times \frac{1}{6}$ として、さいころの出る目によって、赤いさいころの目が 6 の時でも P が頂点 B に止まる事象を把握できていないと考えられるものが多かった。

(2) P の位置と Q の位置が同じ頂点になる確率を求める問題で、正答率は 37 % であった。誤答には $\frac{2}{9}$ や $\frac{5}{36}$ としたものが多かった。それぞれ 6 回移動するとき、P は頂点 A、頂点 B に 2 回、Q も頂点 B、頂点 C に 2 回止まることを考察できていないと考えられるものが多かった。

(3) P、Q の移動後の位置に応じて点数が与えられる事象において、P の点数が Q の点数より高くなる確率を求める問題で、正答率は 26 % であった。無解答のほか、誤答には、 $\frac{1}{4}$ や $\frac{1}{12}$ としたものが多かった。

3

食塩水の濃度を扱った問題である。(1)～(3) の平均正答率は 45 % であった。

(1) 濃度 5 % の食塩水 A 400g に含まれる食塩の重さ求める問題であり、正答率は 74 % であった。80 g という誤答が多かったが、 $400 \div 5 = 80$ として求めたと考えられる。

(2) 食塩水 A に水 100g を加えて作った食塩水 B の濃度を求める問題であり、正答率は 54 % であった。誤答には、 $500 \times 0.05 = 25$ としたと考えられるものがあり、題意を正しく理解できず、正答より高い濃度になる誤答がみられた。

(3) (2) で作った食塩水 B 500g に、濃度 9 % の食塩水 C を混ぜて濃度 5 % の食塩水を作る問題であり、正答率は 15 % であった。無解答のほか、誤答には、 $500 \times 0.04 = x \times 0.09$ より $x = 222.22 \dots \div 222$ としたものや、300、400 がみられた。

4

太郎さんが走り、花子さんが自転車に乗って移動する事象について、表や式・グラフを利用して、距離や時間を考察する問題である。(1)～(5) の平均正答率は 44 % であった。

(1) 表から $y = ax^2$ の a の値を求める問題で、正答率は 68 % であった。誤答には、 $\frac{64}{16} = 4$ としてと考えられるものがみられた。

(2) 花子さんの自転車での移動距離について、表を完成させる問題で、**ア** の正答率は 64 % であった。誤答には、6 や 2 としたものが多かった。**イ** の正答率は、73% であった。誤答には、36 や 28 としたものが多かった。表の中の値の変化を x と y それぞれの範囲での読み取り違いをした解答がみられた。

(3) x の変域を $8 \leq x \leq 12$ とするとき、 x と y との関係を表す式をみる問題である。正答率は 41 % であった。無解答のほか、誤答には、傾きを 4 と捉えたものの、 $4x$ や $4x + 16$ としたものが多かった。

- (4) $0 \leq x \leq 12$ の範囲で、(1)、(3)で求めた x と y との関係を表す式からグラフを表す力をみる問題で、正答率は 55 %であった。(3)を解答ができなくても、表の情報から 2 点を通る直線や放物線だけでもかくことができることから、無解答は少なかった。誤答には、 $8 \leq x \leq 12$ の範囲で二次関数として捉えられず、直線で表記しているものや範囲外へ曲線を延ばしたものがみられた。
- (5) 太郎さんが地点 P に到着する直前に、花子さんが地点 P を出発し、2 秒後に太郎さんに追いつかれる事象を考察する問題で、(ア)は花子さんが地点 P を出発したとき、花子さんと太郎さんの距離を求める問題であり、正答率は 23 %であった。無解答のほか、誤答には、直前という条件に対して、距離 0 や 6 とした解答がみられ、2 秒の間に、花子さんの進む距離がつかめていないものが多かった。(イ)は花子さんが地点 P を出発してから太郎さんに追い付かれ、一度は追い越されたが、その後、太郎さんに追い付くまでの花子さんが地点 P を出発してからの時間を求める問題で、正答率は 12 %であった。無解答のほか、誤答には、 $y = 3x - 5$ で求めた 10 や、(4)のグラフと $y = 3x$ の交点を考えた 12 が多かった。

5

三角形の相似の証明を通して論理的に考察し表現する力と、三角形の辺の長さを求めるために、相似な図形を組み合わせて課題を解決する思考力をみる問題である。(1)、(2)の平均正答率は 24 %であった。

- (1) 「2組の角がそれぞれ等しい」ことを示し、2つの三角形が相似であることを証明する力をみる問題であり、正答率は 32 %であった。誤答には、 $\angle AGB = \angle BED = 90^\circ$ は示せたが、もう一組の角が等しいことが示せていないものや、説明の不十分なものがあつた。
- (2) (ア)は三角形の相似から線分の長さを求める問題であり、正答率は 29 %であった。3 : 4 : 5 の直角三角形を題材としており取り組みやすいとみられるが、折り返すことにより辺の長さがわからなくなったとみられる無解答のほか、誤答には、図から感覚的に求めたと考えられる 2 という解答が多かった。(イ) $\triangle BHG$ も同様に相似であることに気づき、辺の長さを求める問題であり、正答率は 4 %であった。相似比を繰り返し使うことになるが、求めたい長さを最後に引き算で求めるため、思考した過程を残すことが必要とされる。無解答が非常に多かった。

6

誕生日から数を作る手順について、他者の考え方を理解して問題を考察する力や課題を解決する力をみる問題である。(1)～(3)の平均正答率は 31 %であった。

- (1) 手順に基づいて、先生と 2 人の生徒との会話を完成させる問題である。ア、イは手順の通りに数を作るため、アの正答率は 69 %、イの正答率は 52 %である。誤答には、 $x + y \times 2 + 3x$ をそのまま計算したものがみられた。ウ、エは他者の考え方を理解して数量の変化を考察する問題であり、ウの正答率は 46 %、エの正答率は 36 %である。無解答のほか、誤答には、5、10 としたものがみられた。
- (2) 手順通りに作った数と同じになる他の日を求める問題である。正答率は 24 %である。無解答が多かった。
- (3) 手順通りに作った数が、他の日から作った数と同じにならない日は、1 年間に全部で何日あるかを考察する問題であり、正答率は非常に低かった。日常生活で馴染みのあるカレンダーについて、月末を理解していることも必要としていることや文章が長く読解力を要する問題となったため、受検生には難しかったと思われる。

(3) 英語

ア 正答率表

大 問	1										
	1					2					
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)				
正答例	エ	ウ	イ	イ	ア	ウ	He teaches fine <u>arts</u> .	He told them to paint the <u>sky</u> .	He said, "Don't use a dark color like <u>black</u> first."		
配 点	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
小問別正答率(%)	85	88	89	67	64	65	45	34	34		

2				3			4					
1	2	3	4	1	2	3	1	2	3	4		
									(1)	(2)		
December	weather	ウ	エ	ア	イ	(略)	イ	ア	エ	Yes, there <u>are</u> .	Because he thinks it is <u>important</u> to make his friends <u>interested</u> in service dogs.	
3	3	3	3	4	4	4	3	3	3	3	3	
64	52	61	60	56	57	28	68	52	71	68	65	

5	6		5				6			
			1	2			①	②	③	④
	④	⑤								
ア, オ	information	pictures	Please come <u>home</u> <u>before</u> <u>it</u> <u>gets</u> <u>dark</u> .	I think studying abroad will give <u>you</u> <u>many</u> <u>chances</u> <u>to</u> <u>make</u> your English better.			(略)	(略)	(略)	(略)
各3点 計6点	3	3	3	3			4	4	4	4
65	38	49	32	35			75	51	25	26

イ 全般について

中学校学習指導要領及び使用教科書の内容から出題し、英語教育の目指すコミュニケーション能力の育成を十分に踏まえ、中学校における学習活動の成果を総合的に評価できるように配慮した。

出題に当たっては、次のことに留意した。

- ① 言語材料についての知識だけでなく、コミュニケーションを図るための理解や、表現の能力を中心とした英語の運用力を重点的にみること。
- ② 「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4領域の学習活動を踏まえて出題し、言語の使用場面や言語の働きなどの内容は受検生のこれまでの学習活動に配慮した身近なものであること。
- ③ 英文を聞いたり読んだりして、話題の概要や要点を把握したり、必要な情報を正確に選択して理解したりする力をみること。

- ④ 自分の考えや気持ちが読み手に正しく伝わるように表現する力をみること。
本年度の英語の平均点は 56 点であった。

ウ 問題別の考察

1 (放送を聞いて答える問題)

4 領域にわたるコミュニケーション能力の育成を主眼とする学習活動の成果をみるために、放送を聞いて答える問題を設定した。放送の所要時間は 11 分 44 秒程度で、放送で英文を聞く前に、日本語で場面・状況・質問を放送し、受検生が問題を読む時間を設けるなど、目的をもって英語を聞き、必要な情報を得ることができるよう配慮した。

1 の 1

身近で多様な話題についての比較的短い英文の中から、必要な情報を聞き取り、選択肢から適切な正答を選ぶ問題である。英文の特定の一部分ではなく、全体の概要を理解することによって正答を選択することができるように配慮した。(1)～(5)の平均正答率は 79 %であった。

- (1) 久美と友だちのトムとの対話文を聞き、問題用紙の四つの絵の中から、久美の母親が働いている場所を選択する問題である。「hospital」、「school」、「post office」、「flower shop」などの語句を正確に聞き取り、相互関係を判断する力が求められる問題である。正答率は 85 %であった。
- (2) 高志とグリーン先生との対話文を聞き、グリーン先生の指示した箱の置き場所を絵の中から選択する問題である。場所や位置を表す語句を正確に聞き取る力が求められる問題である。正答率は 88 %であった。
- (3) 絵美とジョンとの対話文を聞き、問題用紙の表の中から、博物館で開かれる折り紙教室の内容を表しているものを一つ選ぶ問題である。正答率は 89 %であった。誤答はエが多く、対話文中の曜日と絵美の言葉「Why don't we eat lunch at the museum before the program?」を聞いて、午前か午後かを正しく判断することができない受検生も存在した。
- (4) ポールと妹のナンシーとの対話文を聞き、その最後に付け加えるのにふさわしい文を、問題用紙の四つの英文の中から一つ選ぶ問題である。談話の流れを正しく聞き取った上で、ポールが話すであろう内容を推測し、選択肢の英語を正確に理解して答えるという複数の領域にまたがる力が必要とされる。正答率は 67 %であった。会話の流れを正確に把握できず、ウを選んだ誤答が多かった。
- (5) 美穂が英語の授業で行ったスピーチを聞き、話の内容を正しく表しているものを、四つの英文の中から一つ選ぶ問題である。美穂の話す内容の主張と理由を聞き取る力と短時間で選択肢の英語を読んで答えるという複数の領域にまたがる力が必要である。イを選んだ誤答が多く、正答率は 64 %であった。

1 の 2

中学生の健二が、留学中にアメリカの学校で受けた授業の中で、ブラウン先生が絵を描く際の効果的な色の使い方を説明しているところを場面として設定している。まとまりのある英文を聞いて内容を正確に把握し、その中から必要とされる情報をまとめる力や要点を的確に把握する力が求められる。

(1)、(2)の平均正答率は 45 %であった。

- (1) 説明の全体の概要を踏まえた上で、本文の内容に合致するものを問題用紙の四つの絵の中から一つ選ぶ問題である。正答率は 65 %であった。色や色を塗る順番等の必要な情報を整理してメモをとりながら、正確に聞き取ることが難しかったようである。
- (2) 本文の内容について、英語での設問に英語で答える問題である。正しく情報を捉え、聞き取った内容を踏まえて適切に書く力が必要である。①の正答率は 45 %、②の正答率は 34 %、③の正答率は 34 %であった。①については、「arts」の「s」が書けていない誤答が目立った。②では、「picture」などの誤答が目立った。また、③では、「black」というスペルを「brack」と正しく綴ることができていない誤答が目立った。基本的な語の綴りに課題があることに加えて、まとまりのある説明文から必要な情報を整理して聞き取ることに慣れていない受検生が多く存在すると推察される。

2

様々な場面と話題から構成される比較的短い英文を読み、概要や要点を的確に読み取る力をみる設問と、短い対話文の内容を把握し、空白部分を補充する表現を選択する設問からなる問題である。「定形表現」の知識の有無の確認にとどまることなく、対話の場面や状況、相手の意図を捉え適切に応答する力を測る「談話能力」を重視した問題である。設問2全体の平均正答率は59%であった。

- 1 Janeの誕生日パーティーに参加したTakuyaがJaneと対話している場面である。「It's just one day before New Year's day.」と「Do you mean it's () 31?」の2文からTakuyaの誕生日を導く問題である。正答率は64%であった。「December」という月名を正確に英語で書くことができていない誤答が目立った。
- 2 天気を尋ねるときの表現を説明する文から「weather」というキーワードを書く問題である。「sunny」、「cloudy」、「rainy」に加えて、「hot」、「cold」から「weather」が推測できれば答えられるが、「wether」という綴りの間違いが多く、正答率は52%であった。
- 3 英語で与えられた言語の使用場面を正しく理解し、「提案」の言語の働きをもつ英文を選択させる問題である。正答率は61%であった。場面設定を正しく把握できていなかったり、「Shall I ~?」の機能についての理解が不十分だったことが推察される。
- 4 会話の流れを理解し、「It is my second time ~」との応答から「Have you ever been there?」との疑問文を選択させる問題である。通常は、「Have you ~?」に対する応答は、「Yes」または「No」で答えることが多いため、ウを選択する誤答が目立った。正答率は60%であった。

3

様々な言語材料を用いたまとまりのある英文を読んで、その内容を理解する力をみる問題である。中学校学習指導要領の「読むことの言語活動」に記されている「物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること」を主眼に置き、長文が構成されている。英文は、岐阜を訪問する外国からの旅行者数の変化について、和夫がインターネットで調べてグラフと表を作り、英語の授業の時間に発表しているという設定である。問題1～3の平均正答率は47%であった。

- 1 本文全体の概要を踏まえた上で、本文中の空所に入る適切な国名の組合せを選択する問題である。与えられた表中の国名や人数などのデータを本文と関連付けて的確に英文を理解する力が必要である。「China is near Japan.」と「Korea is also near Japan.」との情報からイを選択する受検生が多かった。正答率は56%であった。
- 2 本文中のグラフや表も含め、和夫の発表の内容を整理し、本文の内容を正しく表す文を選択する問題である。選択肢の英文が比較的長く、難易度は高い。正答率は57%であった。ウを選択する誤答が目立った。
- 3 本文の内容に即して、空欄に自分の考えを書くという新傾向の問題である。ただし、「For example,」に続いて書くことから、和夫の立場に立って自分の考えを書くことが求められるが、空欄や話の流れに合わない解答も目立った。正答率は28%であった。

4

まとまりのある長めの対話文を読んで、その内容を理解する力をみる問題である。中学校学習指導要領の「読むことの言語活動」に記されている「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること」及び、「話すことの言語活動」に記されている「聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること」を踏まえ、対話文が構成されている。

場面は、中学生の浩と美香が放課後の教室でホワイト先生と会話をしているという設定である。テーマは、中学校学習指導要領にある「多様なものの見方や考え方を理解し、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと」に基づいたものである。本文及び設問文での英語使用語彙数は860語以上あるが、親しみやすい題材であること、対話の展開が分かりやすいことなどもあり、問題1～6の平均

正答率は 60 % であり、受検生の多くが、限られた時間内でも、まとまりのあるかなり長い英文を読んで、その内容を理解する力が身に付いていることが判明した。

- 1 ホワイト先生が、会話の中で浩と美香に見せている写真を、四つの中から選択する問題である。本文中に「service dog」に関する様々な記述があるが、「this picture」の後につづく浩の「Judy is playing with your grandfather's shoe, and he is smiling.」との言葉に合う絵を選択することが必要である。正答率は 68 % であった。ウを選択する誤答が多かった。
- 2 本文中の前後関係の文脈から「service dog」の特徴を表す形容詞を四つの中から選択する問題である。ウの「selfish」を選択する誤答が目立った。正答率は 52 % であった。
- 3 本文の流れを踏まえた上で、前後の文脈に合うように、空所に入る適切な英文を選択する問題である。アを選択した誤答が多かった。正答率は 71 % であった。
- 4 本文の内容について、英語での設問に英語で答える問題である。正しく情報を捉え、読んだ内容に即して適切に書く力が必要である。(1)の正答率は 68 %、(2)の正答率は 65 % であった。
- 5 本文の内容に合致する文を六つの中から二つ選択する問題である。正答率は 65 % で、イやエを選択する誤答が多くあった。本文全体の概要を把握した上で、必要な情報が記述されている部分を的確に捉えて読み取る力を育成する必要がある。
- 6 ホワイト先生がホワイト先生のおじいさんに送った Eメールの空所に、本文中から適切な英語を抜き出して補充する問題である。④の「information」については、「idea」や「important」という誤答が目立った。⑤の「pictures」については、「s」がなく「picture」と書く解答が目立った。④の正答率は 38 % で、⑤については 49 % であった。

5

対話文の一文を、前後の意味が通じるように、与えられた語句を整序し答える問題である。概要の把握及び豊かなコミュニケーションを図るために欠かせない統語力が必要とされる。問題 1、2 の平均正答率は 34 % であり、難易度が高かった。

- 1 「before」を接続詞として「it gets dark」と文が続くように語句を正しく整序できるかどうかを問う英文であるが、誤答の中には、「it gets dark before」など「before」を接続詞として使用できていない解答が多く見受けられた。正答率は 32 % であった。
- 2 「give + 目的語 (人) + 目的語 (物)」という第 4 文型の知識と「make + 目的語 + 形容詞」という「make」の使い方を問う英文である。「~ give (you to make many chances) your English better.」との誤答が目立った。正答率は 35 % であった。

6

「新年の挨拶で、年賀状と Eメールのどちらの方法を使いたいか」について、あなたが A L T と話しているという場面設定で、対話に沿って、①から④までの空欄に自分の意見を 1 文又は 2 文の英語で書く問題である。①、②では、「自分の意見」と「その理由」について、③では、自分の意見と反対の意見について、なぜそのように考えるのかを問い、考えを深める流れとなっている。また④では、「どちらの方法においても、新年の挨拶において大切なことは何か」について、自分の考えを書くようになっている。①、②は、与えられた書き出しの語を意識しながら、「身近な場面における出来事について、自分の考えや気持ちが読み手に正しく伝わるように書く」ことをねらいとしている。中学校の指導で、「身近な事柄について、どちらがよいか」について、自分の意見を理由も含めて表現するという活動はよく行われている。しかし、この問題での話題については、理由まで正確かつ適切に表現するのは難しかったと推察される。③、④について、特に③は、新傾向の出題で、正確な英文で表現できていない解答や空欄が目立った。正答率は①は 75 %、②は 51 %、③は 25 %、④は 26 % であった。全体の誤答としては、語順の誤り、代名詞の誤り、動詞の欠如、冠詞の誤用、不定詞の誤り、助動詞の誤用などが目立った。

(4) 理科

ア 正答率表

大問	1								2	
	1	2	3	4	5			6	1	2
小問					(1)	(2)	(3)			
正答例	ア, オ	エ	(a)→d→e→b→c	体細胞分裂	イ	ウ	オ	ア	銅がすべて酸素と反応したから。	(図1)
配点	3	3	3	3	2	2	2	3	3	4
小問別正答率(%)	41	80	87	82	93	95	87	44	75	47

							3							4
3	4	5	6	7	1	2			3	4	5	6	7	1
						(1)	(2)	(3)						
イ	0.18	空気にふれて反応する	$2CuO + C \rightarrow 2Cu + CO_2$	エ	日周運動	イ	エ	オ	ア	ウ	エ	ア	(図2)	0.2
2	3	3	4	2	2	2	2	2	2	3	2	3	3	2
75	52	55	53	84	92	86	72	92	88	47	64	65	46	87

						5							
2	3	4	5	6		1		2		3		4	
				(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)
(図3)	フック	0.08	4.4	ウ	エ	ア	イ, ウ, エ, オ	ウ	エ	ア	中和	イ, エ	電子
3	2	4	4	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2
73	76	25	55	54	55	64	47	33	74	67	85	74	86

図1

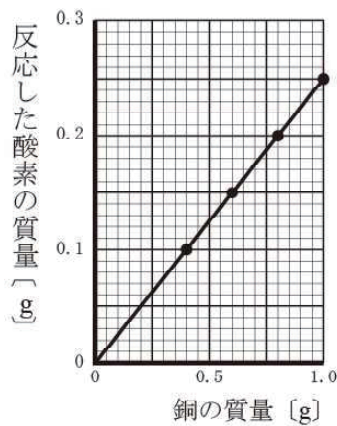


図2

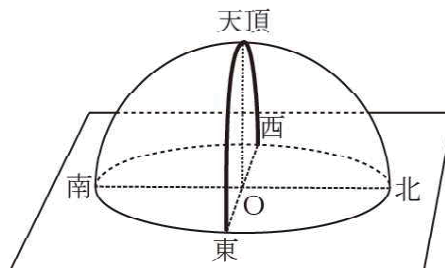
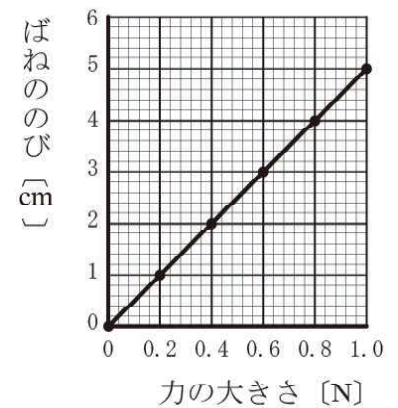


図3



イ 全般について

理科の各分野・領域から、観察、実験に基づく内容を、次の①～⑤に留意して出題した。

- ① 自然の事物・現象及び自然科学における基礎的・基本的な内容についての知識・理解
- ② 観察、実験の基本的な操作及び科学的に調べる能力と態度
- ③ 観察、実験の結果を基にした科学的な思考力
- ④ 自然の事物・現象についての科学的な見方や考え方
- ⑤ 日常生活と関連付けて科学的に考える力

理科の平均点は 66 点であった。大問別にみると、**1**の生物領域の平均正答率が 74 % と最も高く、**4**の物理領域の平均正答率が 57 % と最も低かった。なお、**2**の化学領域の平均正答率は 60 %、**3**の地学領域の平均正答率は 70 %、**5**の探究活動を題材にした総合問題の平均正答率は 66 % であった。

正答率が高かった小問は、**1**では、5 の(2)が 95 %、(1)が 93 %、3 の細胞分裂の順番を答えさせる問題が 87 % であった。**2**では、7 の酸化還元について答える問題が 84 % であった。**3**では、1 の「日周運動」という用語を答える問題と 2 の(3)が 92 %、3 の南中高度を表す角度を答える問題が 88 %、2 の(1)が 86 % であった。**5**では、4 の(2)の「電子」という用語を答える問題が 86 %、3 の(2)の「中和」という用語を答える問題が 85 % であった。一方で、正答率が最も低かった小問は、**4**の 4 の 2 個のおもりが受ける浮力の大きさを答える問題で 25 % であった。また、**1**の 1 のひげ根を伸ばす植物を全て選ぶ問題が 41 %、6 の減数分裂した染色体を選択する問題が 44 %、**2**の 2 のグラフをかく問題が 47 %、4 の酸化銅に含まれる酸素の質量を答える問題が 52 %、**3**の 7 の赤道上で春分の日太陽の軌跡をかかせる問題が 46 %、4 の南中高度から北緯を選択する問題が 47 %、**5**の 2 の(1)のピカリアと同じ地質年代に生息していた生物を選択する問題が 33 %、1 の(2)の呼吸による炭素の流れを全て選択する問題が 47 % と低かった。

これらの結果から、基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着と、それらを活用する能力の育成が必要であるといえる。さらに、文章や表が読み取れていなかったり、理解していても適切に表現できていなかったりしていることから、内容の確実な理解に加えて、説明したい内容を正しい用語や数式を用いて、要点を分かりやすく表現する能力の育成を図るため、言語活動を充実させる指導が必要であるといえる。

ウ 問題別の考察

1

理科の第 2 分野の生物領域からの出題で、タマネギの根の先端の細胞分裂の実験を取り上げ、細胞の変化と成長、体細胞分裂についての総合的な見方や考え方が身に付いているかをみようとした問題である。大問としての平均正答率は 74 % であった。

- 1 ひげ根をのばす植物（単子葉類）を植物の具体的な名前から選択する問題である。正答率は 41 % と低かった。
- 2 顕微鏡で細胞を観察するとき用いる染色液を問う基本的な問題である。正答率は 80 % であった。
- 3 実験で観察された細胞を、細胞分裂の順に並べる問題である。正答率は 87 % と高かった。
- 4 植物が成長するときに起こる細胞分裂である「体細胞分裂」という基礎的・基本的な用語を答える問題である。正答率は 82 % であった。
- 5 与えられた文章の空欄に当てはまる符号を選択することにより、植物の根の成長と細胞分裂の関

係を考察するという科学的な思考力をみようとしました問題である。(1)の正答率は93%、(2)の正答率は95%、(3)の正答率は87%であった。

6 体細胞分裂を用語として理解するだけでなく、実際に概念として理解しているかをみようとしました問題である。正答率は44%と低く、誤答には減数分裂を表したイの解答が多くみられた。

2

理科の第1分野の化学領域からの出題で、銅と酸素の化合の実験と酸化銅から銅を取り出す実験を取り上げ、酸化と還元についての総合的な見方や考え方が身に付いているかをみようとしました問題である。大問としての平均正答率は60%であった。

- 1 銅と酸素の化合の完了を質量の変化で知ることができるという基礎的・基本的な実験操作の意味を問う問題である。正答率は75%であった。
- 2 グラフにまとめられた実験の結果から反応した酸素の量を読み取り、新たにグラフを作成するという問題である。正答率は47%と低かった。
- 3 定比例の法則の理解を問う基礎的・基本的な知識を問う選択問題である。正答率は75%であった。
- 4 酸化銅0.90gに含まれる酸素の質量を求める、定比例の法則を定量的に問う問題である。正答率は52%と低かった。
- 5 ゴム管をピンチコックでとめた理由について、与えられた文章の空欄に当てはまる文を答える問題である。正答率は55%であった。
- 6 酸化銅と炭素の化学変化を化学式で答える問題である。正答率は53%で、無解答も多くみられた。
- 7 与えられた文章の空欄に当てはまる言葉の組合せを選択することにより、銅の酸化還元についての基礎的・基本的な見方や考え方が身に付いているかをみようとしました問題である。正答率は84%であった。

3

理科の第2分野の地学領域からの出題で、太陽の1日の動きの調査から、地球の自転と天体の動きについての総合的な見方や考え方が身に付いているかをみようとしました問題である。大問としての平均正答率は70%であった。

- 1 太陽の1日の見かけの動きである「日周運動」という基礎的・基本的な用語を答える問題である。正答率は92%と高かった。
- 2 与えられた文章の空欄に当てはまる符号を選択することにより、地球の自転に関する、総合的な見方や考え方が身に付いているかをみようとしました問題である。(1)の正答率は86%、(2)の正答率は72%、(3)の正答率は92%であった。
- 3 南中高度はどこの角度を表しているかを選択する問題である。正答率は88%と高かった。
- 4 南中高度と季節から観測点の緯度を問うことで、地球と太陽の立体的な位置関係と、幾何学的な考察を必要とする科学的な思考力を問う選択問題である。正答率は47%と低く、誤答にはイとアが多くみられた。
- 5 夏至の日の太陽の動きを図より選択する問題である。正答率は64%であった。
- 6 季節によって南中高度が変化することから、公転するとき地軸の傾きが変化しないことを問う

問題である。正答率は 65 %であった。

- 7 春分の日の赤道上的における太陽の軌跡をかかせることにより、立体的な空間認知を伴う科学的な思考力を問う問題である。正答率は 46 %と低かった。

4

理科の第 1 分野の物理領域からの出題で、ばねを用いて物体に働く重力と浮力を測定する実験を取り上げ、基礎的・基本的なデータ処理、浮力及び圧力について科学的に考察する力をみようとした問題である。大問としての平均正答率は 57 %と低かった。

- 1 重力の大きさを問う、基礎的・基本的な問題である。正答率は 87 %であった。
- 2 実験の結果をグラフにまとめるという基礎的・基本的なデータを処理する力を問う問題である。正答率は 73 %であった。
- 3 ばねの伸びと弾性力の関係を表す「フックの法則」という基礎的・基本的な用語を答える問題である。正答率は 76 %であった。
- 4 2 個のおもりが受ける浮力の大きさを、空気中でおもりがばねを引く力と、水中でおもりがばねを引く力を比較することで求める問いで、正答率は 25 %と最も低かった。無解答も多くみられた。
- 5 5 個のおもりをばねにつるし、そのうち 3 個を水中に沈めたときのばねの伸びる長さを問う問題である。正答率は 55 %であった。
- 6 直方体の物体をばねにつるし底面を変えて同じ深さだけ水中に沈めたときのばねの伸びから、水圧と水が押す力の違いを問う問題である。(1)の正答率は 54 %、(2)の正答率は 55 %であった。

5

中学生が興味や疑問をもったことについて探究する活動を題材に、科学的な見方や考え方を総合的にみる問題である。大問としての平均正答率は 66 %であった。

- 1 生態系における炭素の循環を題材にした生物領域の問題である。(1)は光合成による炭素の流れを問う問題で、正答率は 64 %であった。(2)は呼吸による炭素の流れを全て選択する問題で、正答率は 47 %と低かった。
- 2 地層の観察を題材にした地学領域の問題である。(1)はピカリアと同じ地質年代に生息していた生物を答える選択問題で、正答率は 33 %と低かった。(2)は砂と泥がくり返し堆積した地層ができる理由について答える選択問題で、正答率は 74 %であった。
- 3 強い酸性の土壌に消石灰をまく農作業を題材にした化学領域の問題である。(1)は水酸化カルシウム水溶液に BTB 溶液を加えたときの色の変化を問う問題で、正答率は 67 %であった。(2)は酸の水溶液とアルカリの水溶液を混ぜ合わせたときの反応である「中和」という基礎的・基本的な用語を答える問題である。正答率は 85 %であった。
- 4 真空放電管と誘導コイルを使用した実験を題材にした物理領域の問題である。(1)は陰極線が負の電荷をもつ粒子の流れであることを答える選択問題で、正答率は 74 %であった。(2)は陰極線の正体である「電子」という基礎的・基本的な用語を答える問題である。正答率は 86 %であった。

(5) 社会

ア 正答率表

大 問	1							
小 問	1	2	3	4	5	6	7	8
正答例	飛鳥文化	イ	ウ	地頭	イ→ウ→ア	江戸から遠い地域に移す	田沼意次	ウ→ア→イ
配 点	2	3	3	2	3	4	2	3
小問別正答率(%)	43	70	52	67	38	77	58	40

					2				
9	10		11	12	1	2		3	4
	(1)	(2)				(1)	(2)		
イ	ア	田中正造	サンフランシスコ平和	エ	南極	ア	経線	ウ	焼畑
3	3	2	2	2	3	3	2	3	2
58	81	47	61	74	78	68	88	87	85

							3	
5	6	7	8	9	10	11	1	2
ロシア連邦 (又は、ロシア)	エ	鹿児島	エ	金沢	夜間人口よりも昼間人口が多くなっている	政令指定	文化財	エ
3	2	3	3	2	4	3	3	3
88	87	41	60	62	78	29	61	41

3	4		5	6	7		8	9	10	11
	(1)	(2)			(1)	(2)				
ア	議院内閣制	イ	国民審査	無条件で契約を取り消す	3	ア	ウ	イ	温暖化	ウ
2	3	2	2	4	2	2	2	3	3	2
96	55	76	47	84	69	45	84	34	84	61

イ 全般について

本年度も中学校社会の3分野からほぼ均等に出題し、中学校で学習する基礎的・基本的な内容に関する知識・理解とともに、資料活用能力や考察力、表現力をみようとしました。大問数は3題とし、短文で答える記述式問題は、歴史的分野、地理的分野、公民的分野ともに各1問の計3問とした。全体の問題数は38問とした。地図やグラフなど、社会科学習の基本となる資料を活用して答える問題や、考察した結果を記述する問題など、本年度も学習指導要領に基づいて中学校で進められている学習を意識して出題した。また、知識・理解に係る問題についても、単に用語を答えさせるのではなく、事象の特徴や理由など、より深い内容を問う出題を多くした。検査の結果は、平均が65点であった。分野別の正答率は、歴史的分野60%、地理的分野70%、公民的分野64%となった。正答率が低かった問題は、歴史的分野では、鎌倉時代後期から南北朝時代前期までの事柄を年代の古い順に並べる問題で、正答率は38%であった。地理的分野では、多くの事務を都道府県に代わって行っている都市を問う問題が29%と低かった。また、公民的分野では、為替相場の変動が貿易に与える影響を符号選択する問題が34%と低かった。

ウ 問題別の考察

1

歴史的分野からの出題で、ある生徒が歴史の授業で興味をもった人物について作成した表とまとめを題材にして、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色についての基礎的・基本的な内容を問うとともに、それぞれの歴史的事象を、相互に関連付けて理解しているかどうかをみようとしました。

- 1 写真を基に、日本で最初の仏教文化の名を問う問題で、正答率は43%と低かった。誤答としては、「天平文化」としたものが多かった。
- 2 古代において、地方の国ごとに編さんされ、自然、産物、伝説などを記したものを符号選択する問題で、正答率は70%であった。誤答としては、「エ」としたものが多かった。
- 3 与えられた文章の空欄に当てはまる数字を符号選択する問題で、平安京に都が移されてから鎌倉幕府が成立するまでの期間について正しく理解しているかどうかをみようとしました。正答率は52%であった。誤答としては、「イ」としたものが多かった。
- 4 与えられた文章の空欄に当てはまる語句を問う問題で、正答率は67%であった。誤答に特に目立った傾向はなかった。
- 5 鎌倉時代後期から南北朝時代前期までの事柄を年代の古い順に並べる問題で、正答率は38%と歴史的分野の中で最も低かった。誤答としては、「ウ→ア→イ」としたものが多かった。
- 6 江戸幕府の大名配置の工夫について、与えられた語句を使って適切に表現することができるかどうかをみる問題で、正答率は77%と比較的高かった。誤答に特に目立った傾向はなかった。
- 7 歴史的事象からそれに関わる老中の名を問う問題で、正答率は58%であった。誤答としては、「水野忠邦」としたものが多かった。
- 8 19世紀半ばのペリーの来航から江戸幕府の崩壊までの事柄を年代の古い順に並べる問題で、正答率は40%と低かった。誤答としては、「ア→ウ→イ」としたものが多かった。
- 9 岩倉使節団が欧米に派遣された頃から陸奥宗光が領事裁判権の撤廃に成功するまでの出来事を符号選択する問題で、正答率は58%であった。誤答としては、「ア」としたものが多かった。
- 10 (1) 与えられた文章の空欄に適切な語句を組み合わせる問題で、日本の産業革命の進展について正しく理解しているかどうかをみようとしました。正答率は81%と歴史的分野の中で最も高かった。
(2) 写真を基に、与えられた文章の空欄に当てはまる人物の名を問う問題で、正答率は47%であった。誤答に特に目立った傾向はなかった。

- 11 与えられた文章の空欄に当てはまる条約の名を問う問題で、正答率は 61 %であった。誤答に特に目立った傾向はなかった。
- 12 高度経済成長の頃の、日本の社会の様子を符号選択する問題で、正答率は 74 %であった。誤答としては、**ウ**としたものが多かった。

2

地理的分野からの出題で、ある生徒が先生との会話で興味をもった事柄について調べたメモを題材にして、地理的分野の基礎的・基本的な内容を確認するとともに、複数の資料を関連付けて読み取る力や、地理的な見方や考え方が身に付いているかどうかをみようとした。

- 1 地図を基に、与えられた文章の空欄に当てはまる大陸の名を問う問題で、正答率は 78 %と比較的高かった。誤答に特に目立った傾向はなかった。
- 2 (1) 略地図とグラフを基に、与えられた文章の空欄に適切な語句を組み合わせる問題で、20 世紀後半にナイル川にダムが建設されるまでの地域的特色について正しく理解しているかどうかをみようとした。正答率は 68 %であった。誤答としては、**イ**としたものが多かった。
(2) 略地図を基に、与えられた文章の空欄に当てはまる語句を問う問題で、正答率は 88 %と高かった。
- 3 写真を基に、ゲルでの伝統的なくらしのみられる国を符号選択する問題で、正答率は 87 %と高かった。誤答に特に目立った傾向はなかった。
- 4 与えられた文章の空欄に当てはまる語句を問う問題で、アマゾン川流域に住む人々の生活の仕組みについて正しく理解しているかどうかをみようとした。正答率は 85 %と高かった。誤答に特に目立った傾向はなかった。
- 5 与えられた文章の空欄に当てはまる国の名を問う問題で、正答率は 88 %と高かった。誤答に特に目立った傾向はなかった。
- 6 与えられた文章の空欄に当てはまる略称を符号選択する問題で、正答率は 87 %と高かった。誤答に特に目立った傾向はなかった。
- 7 グラフを基に、与えられた文章の空欄に当てはまる県の名を問う問題で、正答率は 41 %と低かった。誤答としては、「熊本」としたものが多かった。
- 8 写真と略地図を基に、与えられた文章の空欄に適切な語句を組み合わせる問題で、東北地方の伝統工芸品について正しく理解しているかどうかをみようとした。正答率は 60 %であった。誤答としては、**イ**としたものが多かった。
- 9 石川県の現在の県庁所在地の名を問う問題で、正答率は 62 %であった。誤答に特に目立った傾向はなかった。
- 10 グラフを基に、徳島県上勝町の昼夜間人口の割合の変化について、与えられた語句を使って適切に表現することができるかどうかをみる問題で、正答率は 78 %と比較的高かった。誤答に特に目立った傾向はなかった。
- 11 与えられた文章の空欄に当てはまる語句を問う問題で、正答率は 29 %と全分野の中で最も低かった。誤答としては、「地方中枢」としたものが多かった。

公民的分野からの出題で、ある中学校の生徒たちが、公民の学習のまとめとして、現代社会の抱える課題について探究し、授業で発表した課題解決のための提案を題材にして、社会的事象についての基礎的・基本的な内容の定着度や、諸資料から読み取った事柄を適切に表現する力が身に付いているかどうかをみようとした。

- 1 与えられた文章の空欄に当てはまる語句を問う問題で、文化財の保存に関わる法律について正しく理解しているかどうかをみようとした。正答率は 61 %であった。誤答に特に目立った傾向はなかった。
- 2 与えられた文章の空欄に当てはまる適切な語句を組み合わせる問題で、住民による条例の制定の請求について正しく理解しているかどうかをみようとした。正答率は 41 %と低かった。誤答としては、**ウ**としたものが多かった。
- 3 私生活に関する情報を勝手に公開されない権利を符号選択する問題で、正答率は 96 %と全分野の中で最も高かった。
- 4 (1) 国会と内閣の仕組みを問う問題で、正答率は 55 %であった。誤答に特に目立った傾向はなかった。
(2) 図を基に、国会と内閣の関係を符号選択する問題で、正答率は 76 %と比較的高かった。誤答に特に目立った傾向はなかった。
- 5 与えられた文章の空欄に当てはまる語句を問う問題で、正答率は 47 %であった。誤答に特に目立った傾向はなかった。
- 6 クーリング・オフ制度について、与えられた語句を使って適切に表現することができるかどうかをみる問題で、正答率は 84 %と高かった。誤答に特に目立った傾向はなかった。
- 7 (1) グラフを基に、与えられた文章の空欄に当てはまる整数を問う問題で、1980 年における家族形態別にみた 65 歳以上の高齢者の割合について正しく理解しているかどうかをみようとした。正答率は 69 %であった。誤答に特に目立った傾向はなかった。
(2) 与えられた文章の空欄に当てはまる語句を符号選択する問題で、社会保障の四つの柱について正しく理解しているかどうかをみようとした。正答率は 45 %と低かった。誤答としては、**ウ**としたものが多かった。
- 8 障がいの有無に関係なく、全ての人が地域の中で安心して生活できる社会を目指す考え方を符号選択する問題で、正答率は 84 %と高かった。誤答に特に目立った傾向はなかった。
- 9 与えられた文章の空欄に当てはまる適切な語句を組み合わせる問題で、為替相場の変動が貿易に与える影響について正しく理解しているかどうかをみようとした。正答率は 34 %と公民的分野の中で最も低かった。誤答としては、**エ**としたものが多かった。
- 10 与えられた文章の空欄に当てはまる語句を問う問題で、正答率は 84 %と高かった。誤答に特に目立った傾向はなかった。
- 11 N I E Sに含まれる国を符号選択する問題で、正答率は 61 %であった。誤答に特に目立った傾向はなかった。

出題の意図

国 語

国語を適切に表現し正確に理解する能力をみるために、各領域と言語事項（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）から、基礎的・基本的な内容に関して出題した。

今年度は、**四**で、注釈に基づいて古文を的確に読み取る基礎的な力をみようとした。また、**五**では、文章の全体を把握した上で、必要な情報を選択してまとめる力を、**六**では、中学校の中庭のごみ箱設置に関する二つの意見のうち、どちらの意見に賛成するのかについて、自分の立場を明らかにして、その理由を具体的な例や体験を根拠としての的確に表現する力をみようとした。

数 学

数量や図形などに関する基礎的・基本的な知識・理解、数学的な技能及び数学的な見方や考え方をみるために、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の各領域から出題した。

今年度は、**四**で、走っている人や自転車の速さや距離について、方程式やグラフを利用して問題を解決する力をみようとした。**五**では、二つの図形が相似であることを証明し、その性質を用いて考察する力をみようとした。また、**六**では、誕生日の数字からつくる数について、数学的な見方や考え方を活用して課題を探究する力をみようとした。

英 語

英語によるコミュニケーションの基礎的・基本的な能力をみるために、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4領域の学習活動を踏まえて出題した。

今年度は、**二**で、具体的な言語の使用場面に合った適切な表現で応答する力を、**三**では、必要な情報や大切な部分などを正確に読み取る力を、**四**では、まとまりのある英文を読んで、大まかな流れをつかみながら、登場人物の意向や考えを読み取る力をみようとした。また、**六**では、身近な場面における出来事について、自分の考えや気持ちが読み手に正しく伝わるように表現する力をみようとした。

理 科

自然の事物・現象についての観察や実験を通して、基礎的・基本的な内容についての理解力、科学的な思考力及び表現力をみるために、理科の各分野・領域から出題した。

今年度は、**一**で、タマネギを用いた実験や観察を取り上げ、植物の成長について、基本的な事項が身に付いているかをみようとした。**三**では、太陽の日周運動を題材に、太陽の天球上の見かけの動きについて、総合的な見方や考え方が身に付いているかをみようとした。また、**五**では、興味や疑問をもったことについて探究する活動を題材に、科学的な見方や考え方が身に付いているかをみようとした。

社 会

社会科の基礎的・基本的な内容についての理解力、また、地図やグラフ、図表などの資料を活用する技能及び思考力や表現力などを総合的にみるために、歴史、地理、公民の各分野から出題した。

今年度は、**一**の歴史的分野で、各時代の特色について、基礎的・基本的な内容を理解しているかをみようとした。**二**の地理的分野では、複数の資料を関連付けて読み取る力や、地理的な見方や考え方が身に付いているかをみようとした。また、**三**の公民的分野では、社会的事象についての知識や概念の理解とともに、諸資料から読み取った事柄を適切に表現する力が身に付いているかをみようとした。